



いのちを守る、暮らしを守る。

2017年3月11日 第63号

東京都議会議員
都議会公明党

遠藤守レポート

A Y A世代の がん患者の支援を

10代、20代女性の 性犯罪被害対策の強化も

遠藤守都議は3月2日の都議会本会議で一般質問に立ち、①AYA世代（※）のがん患者支援②10代・20代の女性の性犯罪・性暴力被害者支援③新空港線（蒲蒲線）整備④精神障害者の医療費助成の4点について、小池百合子知事らに質しました。概要を紹介します。



【※ AYA】 「思春期から若年成人」を意味する英語の略。おおむね 15 歳から 39 歳を指す。

一般病院の「緩和ケア」も充実せよ

重い病と向き合いながら、進学や就職、結婚、出産といった人生の転機を迎えるAYA世代にとって、将来への不安ははかり知れません。中でも、終末期の患者さんは、在宅での療養を強く望んでいます。この年代は介護保険の適用外であり、各種サービスを利用するにも全額自己負担で、家計にゆとりがなければその願いは叶いません。

そこで、遠藤都議は「**終末期の在宅療養費の助成をはじめ、AYA世代の患者支援に積極的に取り組むべき**」と提言。福祉保健局長からは、都の「小児がん診療連携協議会」等において、支援のあり方について検討していく旨、答弁がありました。

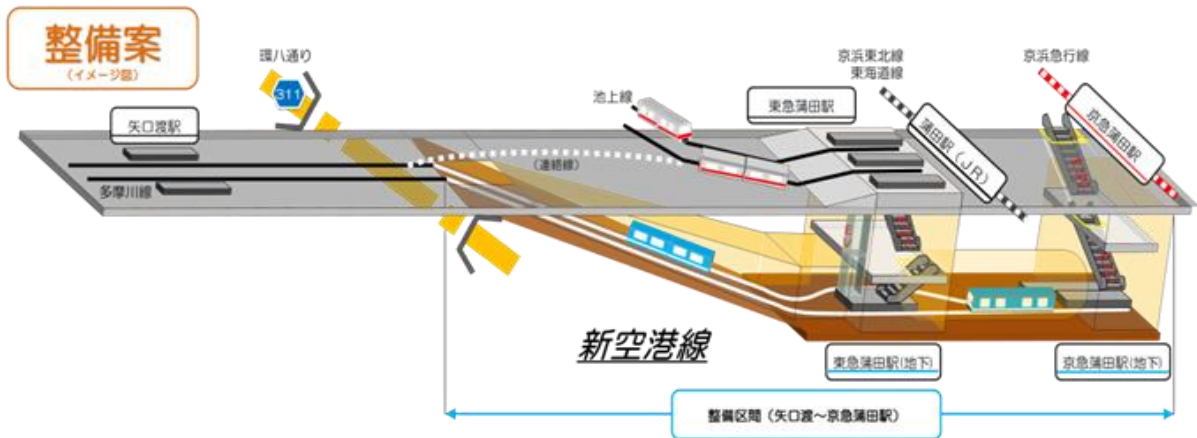
遠藤都議はこの他、がん専門病院以外の一般病院での緩和ケア充実を訴えました。

SOS言えない性被害女性 民間と連携し守れ

貧困やいじめ、親からの性的虐待などの事情から、居場所がなく、繁華街をさまよう10代、20代の女性が増えています。性被害や性暴力に遭った女性のうち約3人に2人は、「知られたくない…」「自分さえ我慢すれば…」などの理由から、誰にも相談できず、ますますハイリスクな状況に陥っています。

遠藤都議は「こうしたSOSの声を挙げられず、現行の制度からもこぼれ落ちている女性たちを、民間団体とも「協働」して救済していくべき」と訴えました。

小池知事は「全ての女性が生き生きと輝ける社会の実現のために尽力してまいりたい」と述べ、全庁を挙げて取り組みを強化していく考えを示しました。



蒲蒲線「賢く、真に有効な投資」と強調

国は、新空港線（蒲蒲線）を含む6つの路線を「整備効果が高い」と判断しています。なかでも蒲蒲線は、30年前から検討されているプロジェクトであり、整備されれば、東急多摩川線を介して東急東横線、東京メトロ副都心線などの5路線が相互直通運転となり、埼玉方面、新宿、渋谷など副都心から羽田空港とのアクセスが飛躍的に向上します。

こうしたことから遠藤都議は、小池知事に対し「整備効果が着実に見込め、関係者の協議が進んでいる路線から順次着手することは、知事が唱える「賢い支出」であり、「真に有効な投資」と言える」と述べ、都として蒲蒲線の整備着手を促しました。

小池知事は「現在、地元大田区や鉄道事業者などと連携し、採算性や費用負担のあり方などについて検討している」と述べ、課題解決に向けた努力を続けていく考えを示しました。

精神障害者の方も医療費助成の対象に

現在の都の医療費助成制度の対象者は、身体障害者手帳1級、2級を持つ方、愛の手帳1度、2度の知的障害者の方などであり、精神障害者の方は含まれていません。

遠藤都議は「それぞれの障害特性は異なるが、同様の支援の手が差し伸べられるべき」と訴え、精神障害者の方も助成対象に加えるよう訴えました。

福祉保健局長は「議会での意見を踏まえ、必要な経費など様々な観点から検討を行っていく」と答え、対象拡大に前向きな姿勢を示しました。